

令和元年度 島田市立島田第二中学校



二中だより 1月号

☆校訓 **文化の薫る学校**

☆学校教育目標 「こころざしを持ち 自分の道を切り拓く生徒」

令和2年1月6日 発行

日本の正月と校訓「文化の薫る学校」

明けましておめでとうございます！皆さんは、どんな年末年始を過ごしたのでしょうか？日本、そして、私たちが住んでいる島田市も、この時期は街中に伝統文化が溢れています。例を挙げれば、年末の歳神様を迎える「すす払い」、家が神聖であることを示す「しめ飾り」、神様の目印の「門松」、お迎えした神様が宿る「鏡もち」や「鏡開き」、長寿を願う「年越しそば」、108の煩惱を絶つ「除夜の鐘」、一年の無事や幸福などをお祈りする「初詣」、これら全ては、私たちの先祖が歩んできた二千年近い歴史に由来しています。国際化が進む現代だからこそ、日本人や島田人としてのアイデンティティを確立すべく周知し、未来に伝えていく事がとても大事だと思います。

それでは、校訓「文化の薫る学校」でいう二中の文化とは何でしょうか。二中の特長としてまず言えることは、「4つもの小学校(地域)から集まること」だと言えます。それに加え海外5つの国にルーツを持つ生徒たちも在籍しています。また、様々なものを抱えながら頑張っている生徒も多くいます。そのような歴史や文化や考え方の違いをもった集まりには、他者理解は不可欠です。それは、相手への「リスペクト」や「思いやり」に繋がり、同時に多様性を認め、いじめのない文化を育む土壌が二中にはあるのです。

その多様性や他者理解を進める一つのツールが「挨拶」となります。そのコミュニケーション能力は、授業で言えば「自分の意見をもった対話的な授業」に繋がります。二中は、昔から他の中学校や地域から、「学校や地域でも挨拶が多い」「授業中にとっても多くの発表や吹きがある」「よい意味で人懐っこく目立ちたがり屋(頑張り屋)」と褒められます。これらの多様性を認め合う土壌、コミュニケーション能力や発信力等は、胸を張って二中の文化の一つだと言えます。

その他に二中の文化として考えられることは、二中学生やその卒業生に文芸に優れている人が多いことです。長い間、伝統として受け継がれている文化祭の合唱は言うまでもなく、創設時から合唱部や吹奏楽部は多くの実績を残してきました。また、書道、美術作品等でも多くの生徒が優れた作品を作り上げています。卒業生には、俳優やミュージカル歌手として大活躍している別所哲也さんがいますが、その歌唱力の素晴らしさは、もしかしたら二中の合唱が影響したかもしれません。また、近年、島田市文化奨励賞を受賞した卒業生には、平成23年度受賞の打楽器奏者山本晶子さん、平成24年度受賞のNHK交響楽団チューバ奏者池田幸広さん、令和元年度受賞者の初鹿野翔さんがいます。初鹿野さんは、所属するT.J.P.P.A.L(ティージェイパル)で最近TVにも出演しています。

ところで、皆さんは「初詣」では何をお祈りしたのでしょうか？将来への夢や目標があるからこそ、本当の頑張りや我慢ができます。新年の誓いのこの時期だからこそ「将来の夢や目標をもち、自分から努力し、自ら選択していくこと」をもっともっとうしていき、変化の激しい混沌とした現代社会の中で生き抜く力をつけていきましょう。



島田第二中学校校長 池谷 英人